



コンフィギュレーション ファイルの説明

この章では、Collection Manager (CM) が使用するコンフィギュレーション ファイルと各ファイルのコンフィギュレーション パラメータについて説明します。

各コンフィギュレーション ファイルは、複数のセクションに分割されています。各セクションは、**[config]** などのヘディング部で特定できます。

現在の構成では必要のないパラメータの行の先頭に **#** を付けると、コメント化できます。

コンフィギュレーション ファイルの変更後は、CM を再起動して、CM 動作に変更を適用する必要があります。



(注)

CM ソフトウェア インストールで提供されているコンフィギュレーション ファイルには、テスト済みの有効な設定が含まれています。通常、ユーザがこの設定を変更することはありません。構成設定を変更する必要がある場合は、細心の注意を払って変更を行ってください。

一般的なコンフィギュレーション ファイル

このセクションでは、**cm.conf** および **queue.conf** コンフィギュレーション ファイルについて説明しています。

- 「[CM コンフィギュレーション](#)」 (P.B-1)
- 「[キュー コンフィギュレーション](#)」 (P.B-5)

CM コンフィギュレーション

このセクションでは CM コンフィギュレーション ファイルの **cm.conf** について説明しています。

- 「[\[adapter\] セクション](#)」 (P.B-2)
- 「[\[adapter_mem\] セクション](#)」 (P.B-2)
- 「[\[adapter_start_timeout\] セクション](#)」 (P.B-3)
- 「[\[buffer\] セクション](#)」 (P.B-3)
- 「[\[queue\] セクション](#)」 (P.B-3)
- 「[\[categorizer\] セクション](#)」 (P.B-4)
- 「[\[server\] セクション](#)」 (P.B-4)
- 「[\[collector\] セクション](#)」 (P.B-4)

- 「[csv_adapter] セクション」 (P.B-5)

[adapter] セクション

[adapter] セクションには次のパラメータが含まれます。

- **automatic_start**
CM の起動またはリセット時にアダプタを自動起動するかどうかを定義します。
このパラメータに設定可能な値は **true** および **false** です。デフォルト値は **true** です。
- **port**
アダプタ マネージャ サーバのポート番号を定義します。このパラメータに設定可能な値は 1024 ~ 65535 の範囲の値です。デフォルト値は **33001** です。
- **timeout**
クライアント アダプタのタイムアウト値を秒単位で定義します。このパラメータを **0** に設定すると、タイムアウトがディセーブルになります。
- **connections**
アダプタ毎のクライアント接続最大数を定義します。
このパラメータに設定可能な値は 2 ~ 100 の範囲の値です。デフォルト値は **20** です。
- **directory**
バッファに格納された Raw Data Record (RDR) データを保存する場所を定義します。このパラメータの接頭辞として ~/ を使用できます。デフォルト値は **~/cm/adapters** です。
- **adapter.<number>**
アダプタの完全クラス名を定義します。ここでは、<number> は一意の ID 番号です。アダプタ定義は、キュー コンフィギュレーション ファイルで定義されたキューの **adapter_id** パラメータと一致していなければなりません。「キュー コンフィギュレーション」 (P.B-5) を参照してください。
- **parestart_start**
アダプタの定期的な再起動を実行する時間を 24 時間形式で定義します。このパラメータの値の例は **23:30** です。デフォルト値は **03:45** です。
- **parestart_interval**
アダプタの定期的な再起動インターバルを分単位で定義します。このパラメータに設定可能な値は 0 ~ 2147483647 (0 ~ $2^{31} - 1$) の範囲の値です。ここで **0** を設定すると、この機能がディセーブルになります。このパラメータのデフォルト値は **10080** 分 (18 時間) です。

[adapter_mem] セクション

[adapter_mem] セクションには次のパラメータが含まれます。

- **<Adapter class name>**
アダプタに割り当てられた最大ヒープ サイズを定義します。次はこのパラメータの設定例です。

```
com.cisco.scmscm.adapters.topper.TAAdapter=-Xmx512M
```



(注) Solaris JRE 64 ビット上で実行している場合は、**-d64** フラグを設定する必要があります。

```
com.cisco.scmscm.adapters.topper.TAAdapter= -d64 -Xmx4096M
```

必要なヒープ サイズが JVM のデフォルト最大ヒープ サイズと異なる場合は、アダプタに割り当てられたメモリの定義を含める必要があります。



- (注) Linux プラットフォーム上にインストールされている場合は、このパラメータの最大値は 2 GB です。Solaris プラットフォーム上にインストールされている場合は、3.5 GB です。Solaris JRE 64 ビット上で実行している場合は、このパラメータにこれよりも大きい値を設定できます。

[adapter_start_timeout] セクション

[adapter_start_timeout] セクションには次のパラメータが含まれます。

- <Adapter class name>

特定のアダプタが起動するまで CM が待機する時間を秒単位で定義します。デフォルト値は 200 秒です。次はこのパラメータの設定例です。

```
com.cisco.scmscm.adapters.topper.TAAdapter=600
```

[buffer] セクション

[buffer] セクションには次のパラメータが含まれます。

- size

バッファ デキューの前にキューに蓄積できる最小バイト数を定義します。

このパラメータに設定可能な値は 1 ~ 262144 の範囲の値です。デフォルト値は **128000** です。

- time

バッファ デキューの最小時間間隔をミリ秒単位で定義します。

このパラメータに設定可能な値は 0 ~ 10000 の範囲の値です。デフォルト値は **1050** です。

- file_limit

各アダプタのキューに格納されるファイルの最大数を定義します。

このパラメータに設定可能な値は 1 ~ 10000 の範囲の値です。デフォルト値は **10000** です。

[queue] セクション

[queue] セクションには次のパラメータが含まれます。

- upper_hysteresis

上限ヒステリシス レベルを合計キュー サイズの割合として定義します。

このパラメータに設定可能な値は 0 ~ 1 の範囲の値です。デフォルト値は **0.11** です。

- lower_hysteresis

下限ヒステリシス レベルを合計キュー サイズの割合として定義します。

このパラメータに設定可能な値は 0 ~ 1 の範囲の値です。デフォルト値は **0.12** です。

- config

キュー コンフィギュレーション ファイルを定義します。このパラメータで定義されるファイル名は、「[キュー コンフィギュレーション](#)」(P.B-5) で説明されているキュー コンフィギュレーション ファイル名です。デフォルト値は **queue.conf** です。

[categorizer] セクション

[categorizer] セクションには次のパラメータが含まれます。

- use_table

RDR をテーブルを使用して分類するか、タグ ビットをデコードして分類するかどうかを定義します。

このパラメータに設定可能な値は **true** および **false** です。デフォルト値は **true** です。

- rate_period_msec

着信 RDR レート計算の更新間隔時間をミリ秒単位で定義します。

このパラメータに設定可能な値は 5000 ~ 30000 の範囲の値です。デフォルト値は **5000** です。

[server] セクション

[server] セクションには次のパラメータが含まれます。

- port

RDR サーバのポート番号を定義します。

このパラメータに設定可能な値は 1024 ~ 65535 の範囲の値です。デフォルト値は **33000** です。

- connections

クライアント接続最大数を定義します。

このパラメータに設定可能な値は 1 ~ 50 の範囲の値です。デフォルト値は **50** です。

- timeout

クライアント タイムアウト時間を秒単位で定義します。デフォルト値は **600** です。

- allow_multi

同じ IP からの同時接続を許可するかどうかを定義します。

このパラメータに設定可能な値は **true** および **false** です。デフォルト値は **false** です。

[collector] セクション

[collector] セクションには次のパラメータが含まれます。

- notification_level

連続する UM 通知の間隔をミリ秒単位で定義します。

このパラメータに設定可能な値は 0 ~ 60000 の範囲の値です。デフォルト値は **10** です。

- log_directory

ログ ファイルを格納するディレクトリを定義します。このパラメータの接頭辞として ~/ を使用できます。デフォルト値は **~/cm/logs** です。

[csv_adapter] セクション

[csv_adapter] セクションには次のパラメータが含まれます。

- csvdir

CSV ファイルの親ディレクトリを定義します。このパラメータのデフォルト値は `~scm scm/cm/adapters/CSVAdapter/csvfiles` です。

キュー コンフィギュレーション

このセクションではキュー コンフィギュレーション ファイルについて説明します。キュー コンフィギュレーション ファイル名は **cm.conf** コンフィギュレーション ファイルの [queue] セクションで定義されます。

キュー コンフィギュレーション ファイルの各セクションでは、キューを定義します。セクション名、キュー名はすべてユーザ定義項目です。各キュー セクションには次のパラメータが含まれます。

- adapter_id

一意のアダプタ ID 番号を定義します。ID 番号は **cm.conf** コンフィギュレーション ファイルの [adapter] セクションの **adapter.<number>** パラメータで定義されているアダプタと一致していなければなりません。「[adapter] セクション」(P.B-2) を参照してください。

- priority

キューのプライオリティ レベルを定義します。このパラメータに設定可能な値は 1 ~ 3 の範囲の値です。このパラメータは廃止予定であるため、変更できません。

- warning_size

警告が送信される前にキューに表示できる RDR 数を定義します。

- maximum_size

キューの最大サイズを定義します。

- tags

カテゴリザによってこのキューに送信される RDR タグ数のリストを定義します。同じタグを複数のキューに送信できます。

次の例では、キュー コンフィギュレーション ファイルで定義されたキューを示しています。

```
# Topper/Aggregator Adapter
[topper-hi]
adapter_id=3
priority=3
warning_size=40000
maximum_size=50000
tags=4042321920
```

アダプタ コンフィギュレーション ファイル

このセクションでは、すべての可能なアダプタのコンフィギュレーション ファイルについて説明しています。

- 「[Topper/Aggregator アダプタ](#)」 (P.B-6)
- 「[CSV アダプタ](#)」 (P.B-9)
- 「[JDBC アダプタ](#)」 (P.B-10)
- 「[RAG アダプタ](#)」 (P.B-11)

Topper/Aggregator アダプタ

このセクションでは TA アダプタ コンフィギュレーション ファイルである `taadapter.conf` について説明しています。

- 「[\[config\] セクション](#)」 (P.B-6)
- 「[\[rdr\] セクション](#)」 (P.B-7)
- 「[\[csv\] セクション](#)」 (P.B-7)
- 「[\[state save\] セクション](#)」 (P.B-8)
- 「[\[db\] セクション](#)」 (P.B-8)
- 「[\[app\] セクション](#)」 (P.B-9)

[config] セクション

[config] セクションには次のパラメータが含まれます。

- `num_top_entries`
報告される上位エントリ数を定義します。デフォルト値は **50** です。
- `num_services`
認識されるサービス（サービス 0 を含む）の最大数を定義します。デフォルト値は **32** です。
- `all_services_index`
データベース/CSV ファイルの「すべての加入者」エントリをマークするインデックスを提供します。デフォルト値は **-1** です。このパラメータの変更は推奨されません。
- `agg_lengths`
各集約サイクル長を分単位で定義します。各サイクルは先行するサイクルで割り切れる数でなければなりません。そうでない場合は、起動時に四捨五入されます。
- `time_base`
集約サイクルのフェーズ（タイム スキュー）を定義します。デフォルト値は **00:00** です。

[rdr] セクション

[rdr] セクションには次のパラメータが含まれます。

- **divide_1024**
すべての消費を 1024 で除算するかどうかを定義します。
このパラメータに設定可能な値は **true** および **false** です。デフォルト値は **false** です。
- **table_name**
NUR テーブルの論理名を **tables.xml** に記述されているとおりに指定します。デフォルト値は **NUR** です。
- **field_subs**
subscriber-id フィールド名を **tables.xml** に記述されているとおりに定義します。デフォルト値は **SUBSCRIBER_ID** です。
- **field_svc**
service counter id フィールド名を **tables.xml** に記述されているとおりに定義します。デフォルト値は **SERVICE_ID,SUBS_USG_CNT_ID** です。
- **field_up**
upstream volume フィールド名を **tables.xml** に記述されているとおりに定義します。デフォルト値は **UPSTREAM_VOLUME** です。
- **field_down**
downstream volume フィールド名を **tables.xml** に記述されているとおりに定義します。デフォルト値は **DOWNSTREAM_VOLUME** です。
- **field_sess**
sessions フィールド名を **tables.xml** に記述されているとおりに定義します。デフォルト値は **SESSIONS** です。
- **field_sec**
seconds フィールド名を **tables.xml** に記述されているとおりに定義します。デフォルト値は **SECONDS** です。

[csv] セクション

[csv] セクションには次のパラメータが含まれます。

- **active**
CSV ファイル作成をアクティブにするかどうかを定義します。
このパラメータに設定可能な値は **true** および **false** です。デフォルト値は **true** です。
- **file_name_format**
CSV ファイル名の形式を定義します。デフォルト値は **yyyy-mm-dd_hh-mm-ss'.csv'** です。
- **dir_name**
CSV ファイルの格納場所を定義します。デフォルト値は **~/cm/adapters/TAAdapter/csvfiles** です。

- `write_headers`
各 CSV ファイルの上部に説明用ヘッダーを書き込むかどうかを定義します。
このパラメータに設定可能な値は **true** および **false** です。デフォルト値は **false** です。
- `metric_separator`
CSV ファイルのメトリックを区切る文字を定義します。デフォルト値は「,」です。
- `service_separator`
CSV ファイルのサービスを区切る文字を定義します。デフォルト値は「,」です。

[state save] セクション

[state save] セクションには次のパラメータが含まれます。

- `active`
保存またはロード状態をアクティブにするかどうかを定義します。
このパラメータに設定可能な値は **true** および **false** です。デフォルト値は **true** です。
- `file_name`
保存またはロードに使用されるステータス ファイル名を定義します。デフォルト値は **taadapter.sav** です。

[db] セクション

[db] セクションには次のパラメータが含まれます。

- `name_of_total_subs`
データベースの「すべての加入者」の指定を定義します。
- `db_template_dir`
メイン データベース コンフィギュレーション テンプレートの場所を、CM コンフィギュレーション ディレクトリの相対パスとして定義します。コンフィギュレーション ファイルには、3 つの構成可能なデータベースのデフォルト値が含まれます。ただし、一度に構成できるデータベースは 1 つだけです。設定可能な値は次のとおりです。
 - Oracle : **dbpacks/oracle/9204e**
 - Sybase : **dbpacks/sybase/ase12.5.1**
 - MySQL : **dbpacks/mysql/4.0.20**
 デフォルト値は **dbpacks/sybase/ase12.5.1** です。
- `db_template_file`
メイン データベース コンフィギュレーション テンプレート名を定義します。デフォルト値は **main.vm** です。このパラメータの変更は推奨されません。
- `operations_timeout`
接続、挿入などのデータベース操作の完了にかかる最大許容時間数を秒単位で定義します。デフォルト値は **60** です。
- `blocking_connects`
データベースへの接続の試みをブロックするかどうかを定義します。
このパラメータに設定可能な値は **true** および **false** です。デフォルト値は **false** です。

- `connection_timeout`
データベースへの接続の試みを許可する秒数を定義します。デフォルト値は **900** です。
`blocking_connects` が **true** に設定されている場合は、このパラメータは無視されます。
- `connection_wait_period`
次の接続の試みを実行するまで待機する時間を秒単位で定義します。デフォルト値は **10** です。

[app] セクション

[app] セクションには次のパラメータが含まれます。

- `app_conf_file`
アプリケーション コンフィギュレーション XML ファイル名を定義します。デフォルト値は **dbtables.xml** です。
- `app_dtd_file`
アプリケーション コンフィギュレーション DTD ファイル名を定義します。デフォルト値は **dbtables.dtd** です。
- `app_conf_dir`
アプリケーション コンフィギュレーション XML ファイルと DTD ファイルの場所を、CM コンフィギュレーションディレクトリからの相対パスとして定義します。デフォルト値は **apps/scasbb/3.5.0** です。

CSV アダプタ

このセクションでは CSV アダプタ コンフィギュレーション ファイルである **csvadapter.conf** について説明しています。

[csvadapter] セクション

[csvadapter] セクションには次のパラメータが含まれます。

- `maxCSVFiles`
CSV ファイルの最大エントリ数を定義します。この数に達すると、カウント数が 1 に戻ります。
このパラメータに設定可能な値は 1 ～ 9999 の範囲の値です。デフォルト値は **9999** です。
- `rdrLimit`
1 つのファイルに書き込み可能な最大 RDR 数を定義します。
このパラメータに設定可能な値は 1 ～ 1000 の範囲の値です。デフォルト値は **1000** です。
- `backupPreviousFiles`
既存の CSV ファイルを上書きする前にバックアップするかどうかを定義します。
このパラメータに設定可能な値は **true** および **false** です。デフォルト値は **false** です。
- `includeRecordSource`
各 RDR 行のレコード送信元 (SCE IP) を含めるかどうかを定義します。
このパラメータに設定可能な値は **true** および **false** です。デフォルト値は **false** です。

- `escapeNonPrintables`
プリント不可能文字をエスケープするかどうかを定義します。
このパラメータに設定可能な値は **true** および **false** です。デフォルト値は **false** です。



(注) `escapeNonPrintables` を **true** に設定すると、アダプタ パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。

JDBC アダプタ

このセクションでは JDBC アダプタ コンフィギュレーション ファイルである `jdbcadapter.conf` について説明しています。

- 「[\[bench\] セクション](#)」 (P.B-10)
- 「[\[db\] セクション](#)」 (P.B-10)
- 「[\[app\] セクション](#)」 (P.B-11)

[bench] セクション

`[bench]` セクションには次のパラメータが含まれます。

- `rate_period_msec`
挿入レート更新時間間隔をミリ秒単位で定義します。デフォルト値は **5000** です。
このパラメータを **0** に設定すると、挿入をディセーブルにします。

[db] セクション

`[db]` セクションには次のパラメータが含まれます。

- `db_template_dir`
メイン データベース コンフィギュレーション テンプレートの場所を、**CM** コンフィギュレーション ディレクトリの相対パスとして定義します。コンフィギュレーション ファイルには、3 つの構成可能なデータベースのデフォルト値が含まれます。ただし、一度に構成できるデータベースは 1 つだけです。設定可能な値は次のとおりです。

- Oracle : **dbpacks/oracle/9204e**
- Sybase : **dbpacks/sybase/ase12.5.1**
- MySQL : **dbpacks/mysql/4.0.20**

デフォルト値は **dbpacks/sybase/ase12.5.1** です。

- `db_template_file`
メイン データベース コンフィギュレーション テンプレート名を定義します。デフォルト値は **main.vm** です。このパラメータの変更は推奨されません。
- `batch_size`
1 つのバッチで実行可能な挿入数を定義します。デフォルト値は **10** です。
- `transaction_size`
1 つのトランザクションで実行可能なバッチ数を定義します。デフォルト値は **15** です。

- `commit_interval`
データベース コミットの最大時間間隔を秒単位で定義します。デフォルト値は **6** です。
- `operations_timeout`
接続、挿入などのデータベース操作の完了にかかる最大許容時間数を秒単位で定義します。デフォルト値は **60** です。
- `blocking_connects`
データベースへの接続の試みをブロックするかどうかを定義します。
このパラメータに設定可能な値は **true** および **false** です。デフォルト値は **true** です。

[app] セクション

[app] セクションには次のパラメータが含まれます。

- `app_conf_file`
アプリケーション コンフィギュレーション XML ファイル名を定義します。デフォルト値は **dbtables.xml** です。
- `app_dtd_file`
アプリケーション コンフィギュレーション DTD ファイル名を定義します。デフォルト値は **dbtables.dtd** です。
- `app_conf_dir`
アプリケーション コンフィギュレーション XML ファイルと DTD ファイルの場所を、CM コンフィギュレーションディレクトリからの相対パスとして定義します。デフォルト値は **apps/scasbb/3.5.0** です。

RAG アダプタ

このセクションでは RAG アダプタ コンフィギュレーション ファイルである **ragadapter.conf** について説明しています。

- 「[config] セクション」(P.B-11)
- 「[housekeeper] セクション」(P.B-12)
- 「[db] セクション」(P.B-12)
- 「[app] セクション」(P.B-13)

[config] セクション

[config] セクションには次のパラメータが含まれます。

- `xml_filename`
RAG アダプタが実行するリアルタイム集約を定義するアプリケーション コンフィギュレーション XML および DTD ファイルの場所を定義します。デフォルト値は **~/cm/config/ragadapter.xml** です。

[housekeeper] セクション

[housekeeper] セクションには次のパラメータが含まれます。

- interval_sec

集約およびシンク操作を実行するスケジュールされたタスクの実行インターバルを定義します。デフォルト値は **10** です。

[db] セクション

[db] セクションには次のパラメータが含まれます。

- db_template_dir

メイン データベース コンフィギュレーション テンプレートの場所を、CM コンフィギュレーション ディレクトリの相対パスとして定義します。コンフィギュレーション ファイルには、3 つの構成可能なデータベースのデフォルト値が含まれます。ただし、一度に構成できるデータベースは 1 つだけです。設定可能な値は次のとおりです。

- Oracle : **dbpacks/oracle/9204e**
- Sybase : **dbpacks/sybase/ase12.5.1**
- MySQL : **dbpacks/mysql/4.0.20**

デフォルト値は **dbpacks/sybase/ase12.5.1** です。

- db_template_file

メイン データベース コンフィギュレーション テンプレート名を定義します。デフォルト値は **main.vm** です。このパラメータの変更は推奨されません。

- batch_size

1 つのバッチで実行可能な挿入数を定義します。デフォルト値は **10** です。

- transaction_size

1 つのトランザクションで実行可能なバッチ数を定義します。デフォルト値は **15** です。

- commit_interval

データベース コミットの最大時間間隔を定義します。デフォルト値は **6** です。

- operations_timeout

接続、挿入などのデータベース操作の完了にかかる最大許容時間を定義します。デフォルト値は **60** です。

- blocking_connects

データベースへの接続の試みをブロックするかどうかを定義します。

このパラメータに設定可能な値は **true** および **false** です。デフォルト値は **true** です。

[app] セクション

[app] セクションには次のパラメータが含まれます。

- `app_conf_file`

アプリケーション コンフィギュレーション XML ファイル名を定義します。デフォルト値は **dbtables.xml** です。

- `app_dtd_file`

アプリケーション コンフィギュレーション DTD ファイル名を定義します。デフォルト値は **dbtables.dtd** です。

- `app_conf_dir`

アプリケーション コンフィギュレーション XML ファイルと DTD ファイルの場所を、CM コンフィギュレーションディレクトリからの相対パスとして定義します。デフォルト値は **apps/scasbb/3.5.0** です。

